2020年度　授業概要

科目名	言語聴覚障害診断学			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間　2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年　通年

〔授業の目的・ねらい〕
言語聴覚障害の基礎となる診断の流れや方法を学び、演習を行いながら技術を修得する。

【実務者経験】
言語聴覚士として蘇生会総合病院、川南病院に勤務、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリに従事経験。

〔授業全体の内容の概要〕
言語聴覚障害の基礎となる診断の詳細を演習を通して学ぶ。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕
適切な臨床活動を行うための基礎的能力を養う。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	評価診断の理念、評価診断の目的、客観性・妥当性・信頼性の説明	
2	正常値と個人差の理解、仮説の設定・検証、事実の記述	
3	事実記述の例、練習	
4	評価の基礎的過程、検査の種類と選択	
5	検査報告書の作成	
6	訓練の方法、ゴール設定、基礎訓練と応用訓練について	
7	相談と環境調整、チームアプローチについて	
8	失語症の診断の基礎知識について	
9	失語のタイプ分類について（ブローカ、ウエルニッケ失語等）	
10	失語症の専門用語の再確認（喚語障害、錯語、反響言語等）	
11	検査方法について（自発話、復唱等）	
12	失語症のタイプ分類実践について①	
13	失語症のタイプ分類実践について②	
14	失語症のタイプ分類実践について③	
15	失語症のタイプ分類実践について④、まとめ	
16	各種画像診断法の原理と特徴（１）	
17	各種画像診断法の原理と特徴（２）	
18	画像の見方　脳表の画像解剖（１）	
19	画像の見方　脳表の画像解剖（２）	
20	画像の見方　大脳深部の画像解剖（１）	
21	画像の見方　大脳深部の画像解剖（２）	
22	画像の見方　脳の血管画像解剖（１）	
23	画像の見方　脳の血管画像解剖（２）	
24	画像の見方　脳室・脳槽の画像解剖（１）	
25	画像の見方　脳室・脳槽の画像解剖（２）	
26	画像の見方　頭部症例検討	
27	画像の見方　胸部画像について	
28	画像の見方　胸部単純X線画像を軸に	
29	画像の見方　胸部CT画像を軸に	
30	画像の見方　胸部画像症例検討	
	定期試験	

【使用教科書・教材・参考書】
乳幼児期のことばの発達とその遅れ

【準備学習・時間外学習】
授業内容の復習が必要です。

【　単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）　】
試験の結果を100点満点として成績を評価する。
定期試験を60点、レポートの評価を40点の合計100点とする。
60点以上の場合に科目を認定する。